

プラネタリウム解説CDの制作とその販売

太田 哲朗*

Produce original audio CDs for finding stars and constellations

Tetsuaki Ohta

キーワード：プラネタリウム，生解説投影，解説CD

1. はじめに

三瓶自然館は直径20mの大型ビジュアルドームを有し、日々複数の番組を上映あるいは投影している。この上映プログラムのうち、職員がその日の星空を解説するプラネタリウム生解説投影は、リアルタイムの情報提供と親近感の高い投影スタイルから、安定した人気を得ている。

こうした状況を背景に、星空についての解説をプラネタリウムだけでなく、家庭等でも楽しみたいという要望が継続して見られたことから、スタッフによる星空解説を録音したプラネタリウム解説CD（以下、解説CD）を制作、販売した。この結果と、あわせて実施した館職員へのモニター調査について報告する。

2. 解説CDの制作、販売

制作にあたっては、主としてプラネタリウムが星空や映像をもとに解説を進めるのに対し、CDはあらゆる状況のなかで聞く可能性があることを考慮する必要があった。そのため、具体的な星座の探し方よりは、イメージしやすい神話や物語などを中心に構成することとし、季節をテーマとした25分程度の作品と設定した。続いて、シナリオからパッケージングに至るほぼすべての作業を館職員の手によって行い、初めに夏版を制作した。

制作した解説CDは、三瓶自然館の売店「ひめのが」にて平成26年5月から販売を開始した。価格は1

枚800円（消費税別）に設定し、簡易な星座早見のリーフレットを封入している。これは発売からの約4ヶ月間で30枚が購入された。またこの後、秋版を制作して11月に販売を開始し、続いて冬版を制作中である（写真1）。



写真1 売店での解説CD販売

3. 解説CD内部モニター調査

解説CDの販売結果からは、こうしたアイテムに対してある程度の需要が存在することが判明した。そこで、解説CDの制作に関わっていない館職員を対象として、今後制作を続けるうえで改善する点を調べるためのモニター調査を実施した。夏版と秋版それぞれ5名ずつ、計10名に対して行った調査の項目とその結果、およびそこから読み取れる傾向を以下に示す。

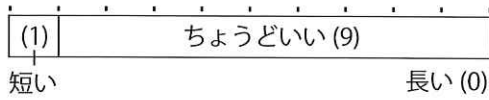
* 島根県立三瓶自然館，〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

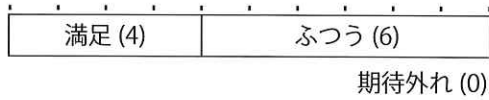
1. CD の内容について

1-1. 長さ/content

長さ

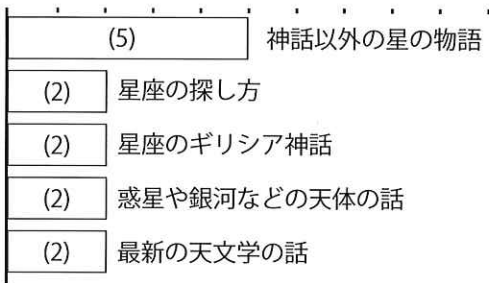


CD の感想



1-2. こうしたCD に期待する内容

どのような内容を期待するか (複数可)

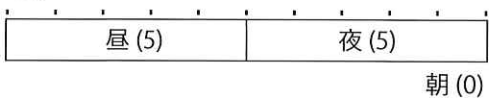


CD の内容については、長さや内容ともにおおむね期待通りという結果が得られた。また、内容ではギリシア神話以外の星の物語（日本の民話、アジアの物語など）をより期待する様子が見える。

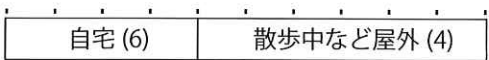
2. 解説CD を利用するシチュエーション

2-1. CD をどんなシチュエーションで聞いたか

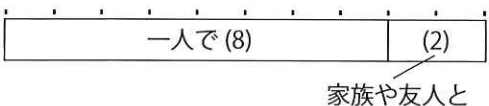
いつ聞いたか



どこで聞いたか

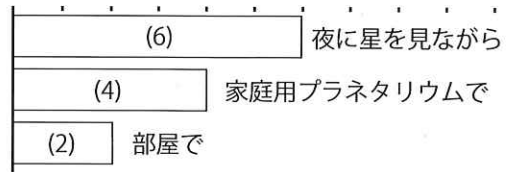


誰と聞いたか

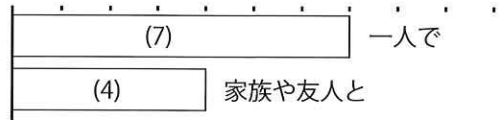


2-2. 今後聞くなら、どのように利用したいか

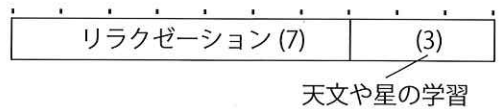
どんな時 (複数可)



だれと (複数可)



どのように



モニターでは「昼から夜にかけて一人で聞いた」というシチュエーションが多かったが、聞いた上での感想としては「夜空や家庭用プラネタリウムで星を見ながらのんびりと」という利用法が望まれている。一人に限らず、家族や友人とともにリラックスして聞いてみたいという傾向が見られるだろう。

4. おわりに

今回のCD 販売とモニター調査により、プラネタリウムに関係した解説CD の需要があることと、解説CD をどのように利用したいかの傾向が得られた。想定される利用法を踏まえると、星の物語などをリラックスして聞きたい、という傾向が見えてくる。今後は、ナレーションやBGM の選曲、演出方法などにこうした方向性を持たせた上で制作を検討する必要がある。また、CD 購入者に対するアンケートなど追跡調査も行いながら、天文に親しむツールとして解説CD を発展させていきたい。